

分野	基礎分野	担当者	藤山久代
授業科目	情報処理	実務経験	
		単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
対象学年・学期	1 学年・前期	DP との関連	DP5
授業の目的	・コンピュータを道具として活用し、さまざまな情報の収集と発信を行いながら、よりよい情報の活用法を身につける。 ・パソコン操作の基礎知識と技術を身につける。 ・インターネットの活用法を身につける。		
授業の概要	・ Word を活用して入力、体裁の整え方、表の作成について学び、文書を作成する。 ・ Excel を活用してデータの入力、計算、グラフの作成、データベース的活用について学び、報告書へ利用できるようにする。 ・ PowerPoint を活用してプレゼンテーションを作成する。 ・ Web ページのデータを他のアプリケーションで活用する。		
授業計画（回・内容・授業形態）	1 回 2 回～ 4 回 5 回～ 8 回 9 回～ 11 回 12 回～ 14 回 15 回	1 パソコンの基本操作 1) ア情報リテラシーアプリケーションソフトの基本操作 2) Web ページの活用 2 アプリケーションソフトの活用 1) Word の活用 ①入力の練習 ②体裁を整える ③表の作成 ④文書の作成 2) Excel の活用 ①データの入力 ②計算 ③グラフの作成 ④関数の利用 ⑤データベース ⑥Word 文書への利用 3) PowerPoint の活用 ①プレゼンテーション資料の作成 ②アニメーション効果、音響効果の活用 3 動画の編集 ビデオエディターを活用して動画を編集 テスト	講義・演習 インターネット上の危険から身を守る方法を考える 講義・演習 表・画像・図形を挿入し、体裁を整えた文書をつくる 講義・演習 関数を利用してデータを作成しグラフ化し、わかりやすい報告書を作成 講義・演習 聞き手にわかりやすいプレゼンテーションを作成 演習 個別作成
使用テキスト	30 時間でマスターOffice2019 実教出版		
参考図書	日経 PC21		
評価方法	実技 筆記テスト ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。		
履修上の注意			

分野	基礎分野	担当者	清水 正憲（非常勤）
授業科目	情報リテラシー	実務経験	
		単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
対象学年・学期	1 学年・前期	DP との関連	DP5
授業の目的	情報について学びを深め、看護専門職として情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的能力を養う。		
授業の概要	講義にて、情報、情報倫理、情報リテラシーについて理解する。今後、看護専門職として情報通信技術（ICT）を活用できるよう Zoom や Teams、SNS、生成 AI 等について学びます。		
授業計画（回・内容・授業形態）	第 1 回 講義ガイダンス、情報リテラシー 第 2 回 情報、情報機器の歴史、インターネット 第 3 回 Office365 第 4 回 メール 第 5 回 } 検索エンジン 第 6 回 } Office 365 第 7 回 } SNS 第 8 回 } 生成 AI 第 9 回 } 画像処理（静止画） 第 10 回 } 情報の信頼性、モラル 第 11 回 } 第 12 回 } レポート作成 第 13 回 } レポート発表 第 14 回 } 学習の振り返り（情報リテラシー、情報管理、まとめ） 第 15 回 まとめ・筆記試験 授業時間外に必要な学習（予習・復習）の内容 ・情報活用の手段は、日新月异で進化しています。TV 等メディアからの最新情報に興味を持ち日常生活に活かしてゆきましょう。		
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院		
参考図書	・日経 PC21 ・学生のための SNS 活用の技術 ・日本経済新聞 ・Zoom,Slack,Teams テレワークに役立つ教科書		
評価方法	授業態度(20%)、レポート 20%、筆記試験(60%) ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の進行度合により、内容を変更することがある。 Zoom, Teams 等を活用して授業時間の半分程度を遠隔にて行う。		

分野		基礎分野	担当者	二宮みき
授業科目		論理的思考	実務経験	
			単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
対象学年・学期		1 学年・前期	DP との関連	DP2
授業の目的	論理的に考えるための技術を学ぶことを通して、書く力を養うことを目的とする。			
授業の概要	テキストに沿って、論理的思考力の内実である、「言い換える力」、「比べる力」、「たどる力」を養い、書く力を身につける。			
授業計画（回・内容・授業形態）	①授業内容 1 回 論理的思考力とは何か 2 回・3 回 ①お手本を書き写す 4 回・5 回・6 回 ②一部を自力で書く 7 回・8 回・9 回 ③よりよい文章 10 回・11 回 ④全体を自力で書く 12 回・13 回・14 回 ⑤要約力を身につける 15 回 筆記試験 ②授業形態 講義・演習 ③授業外に必要な学習 ・授業時に示す課題をする。		論理的思考力の内実の三つの力を学ぶ。 原稿用紙・パソコンの書き方を学ぶ。 基本の型に慣れる。 基本の型を理解して、自力で書く練習をする。 「対比関係」、「因果関係」、「同等関係」を理解して、文章を書く。 ポイントに従って書く。 ポイントに従って要約の仕方を理解する。 練習問題を通して、要約力を養う。	
	使用テキスト		ふくしま式 200 字メソッド「書く力」が身につく問題集〔小学生版〕 大和出版	
参考図書		松葉祥一：ナースのための実践論文講座 人文書院		
評価方法		筆記試験（70%）、課題（20%）、学習態度（10%）の総合評価 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。		
履修上の注意		A 4 ファイルを準備する。		

分野		基礎分野	担当者	桐山浩之
授業科目		物理学	実務経験	
			単位数（時間数）	1 単位（15 時間）
対象学年・学期		1 学年・前期	DP との関連	DP2
授業の目的	物理学の基本法則を理解し、看護に必要な物理的な基礎知識を修得する。 運動と力、圧力、熱、音と光、電気と磁気、放射線等の物理現象と臨床の場で用いられている看護技術の関連について学ぶ。			
授業の概要	物理学の基本法則を学び、それらの法則を用いて基本的な物理現象について解析することができるようにする。 物理的な事物や現象について演習を行い、技能の向上を図るとともに自然に対する興味や関心を高め、物理的に探究する能力を身につける。			
授業計画（回・内容・授業形態）	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回	第 1 章 運動と力 A 物体の運動 B 力と加速度 第 1 章 運動と力 C 力のつり合い D 力のモーメント F 圧力 第 2 章 熱 A 熱と温度 B 固体・液体・気体 C 熱と仕事 第 3 章 音と光 B 音 C 光 第 4 章 電気と磁気 A 電気とは何か 第 4 章 電気と磁気 B 磁気 第 5 章 放射線 A 原子の構造 B 原子核と放射線 C 放射線の人体への影響 D 医療における放射線の利用 筆記試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
使用テキスト	系統看護学講座 基礎分野 物理学 医学書院			
参考図書				
評価方法	筆記試験 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。			
履修上の注意				

分野	基礎分野	担当者	太田佳光
授業科目	教育学	実務経験	
		単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
対象学年・学期	2 学年・後期	DP との関連	DP2
授業の目的	教育学の基本概念として、ヒューマニズムの教育思想の誕生について講義し、わが国における学校教育の役割や諸問題について解説する。さらに、学齢期における教育問題の解決などに必要な対応や、人間理解について考えを深めることを目的とする。		
授業の概要	私たちの社会に学校が誕生した経緯をふまえて、教育の持つ意義と役割について多様な視点から明らかにしてゆく。さらに、現代教育の様々な課題を取り上げることで、社会的弱者としての子どもに関わる態度や意識について、考察してゆく。		
授業計画（回・内容・授業形態）	第1回：教育学の基本的な視点と社会化の違いなどについて講義する。 第2回：近代教育の誕生とヒューマニズムの教育思想について講義する。 第3回：近代社会における学校の果たす役割について解説する。 第4回：わが国における明治維新と公教育の成立について講義する。 第5回：民衆の学校教育の受容と学歴主義社会の関係について講義する。 第6回：戦後の教育の大衆化と学歴主義社会化について講義する。 第7回：学ぶ意味の変質とトーナメント型人間像の問題について講義する。 第8回：教師に求められる教育像とその課題について講義する。 第9回：教育問題の（1）として、逸脱論と校内暴力の生起について講義する。 第10回：教育問題の（2）としていじめ問題とその対応について講義する。 第11回：教育問題の（3）として、不登校問題について講義する。 第12回：生徒指導と進路指導の現状について講義する。 第13回：教師と子どもの望ましい関係づくりについて講義する。 第14回：これからの学校の役割について講義する。 第15回：まとめ・筆記試験 毎授業後に、授業内容についての確認と自身の意見や考えを小レポートにまとめること。		
使用テキスト	必要な資料を配布する。		
参考図書	太田佳光他編『教育現象を読み解く』黎明書房、1998 年。		
評価方法	筆記試験（100 点）によって評価する。 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。		
履修上の注意	講義の随所でディスカッションを行うため、授業に積極的に参加する必要がある。		

分野		基礎分野	担当者	菊池 侃
授業科目		英語	実務経験	
			単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
対象学年・学期		3 学年・前期	DP との関連	DP5
授業の目的	英語の定型句や看護用語・医学用語を学び、将来外国人や医療英語に対応するための英語の能力を身につける。			
授業の概要	☆来院した外国人の患者に対して英語で対応する。 ☆入院した外国人の患者に対して英語で対応する。 ☆各課の会話文を二人一組で演じる。英文は暗記することが望ましい。			
授業計画（回・内容・授業形態）	第 1 回 オリエンテーション（看護英語とは。 学習の心得） 第 2 回 Checking In（入院手続きを行う） 第 3 回 General Consultation（症状について患者に尋ねる） 第 4 回 Vital Signs（バイタルサインを調べる） 第 5 回 Admission and Orientation to the Hospital Routine（病棟について説明する） 第 6 回 Data Collection from Patients（患者からの聞き取りを行う） 第 7 回 Daily Activities（生活習慣について尋ねる） 第 8 回 Tests（検査を行う） 第 9 回 Procedures（手術後の手順について説明を行う） 第 10 回 Positioning the Patient in Bed（体の向きを変える手伝いを行う） 第 11 回 Bath and Comfort（入浴の手伝いを行う） 第 12 回 Patient Teaching（患者に薬の説明を行う） 第 13 回 Small Talk（患者に質問するときの表現を学ぶ） 第 14 回 筆記試験に備えて課題プリントの作成 第 15 回 筆記試験、課題プリントの提出 *各課の会話文の意味を調べておくこと。（辞書・索引などを利用して） *課題プリントがあります。			
使用テキスト	臨床看護英語：医学書院			
参考図書	ポケット医学英和辞典；医学書院			
評価方法	筆記試験（80 点）課題プリント（20 点）を合計して評価する。 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。			
履修上の注意	課題プリントは指示された期日までに提出すること。			

分野	基礎分野	担当者	中村 光宏
授業科目	生活科学	実務経験	
		単位数（時間数）	1 単位（15 時間）
対象学年・学期	1 学年・後期	DP との関連	DP2
授業の目的	・衣食住の生活について学び、健康で快適な生活について考えることにより、身につけた知識を看護に活用できるようにする。 ・看護師としてのよりよい人間性を形成し高めていくために、人間の生活・文化の多様性を理解し、それを看護の場面で活用できるようにする。		
授業の概要	講義をとおして、自分自身が健康で快適な生活を送ることができるようになる。衣食住などの健康を取り巻く環境、社会的環境の抱える問題を知りそれを解決するにはどうすれば良いのか、何が必要なのかを知ることにより、より良い看護の方向性を見出していけるよう気付く機会を持つ。		
授業計画（回・内容・授業形態）	1 回 2 回 3 回 4 回 5 回 6 回 7 回 8 回 （1 時間）	1 食生活と文化 ①健康の考え方 ②私たちの健康の姿 ③生活習慣病と食生活 ④食事と健康 ⑤休養睡眠と健康 2 衣服と生活 ①繊維が進化する ②衣料品の 3R 3 住まいの工夫 ①快適な住まいの空間 ②将来の家を考える 4 人間の生活、経済活動 ①健康で安全に暮らす ②物質的な豊かさとは ③心の豊かさとは ④将来に備えて ⑤人をつなぐ看護師の役割とは 5 人間と環境 ①我々を取り巻く環境 テスト	講義 健康な食生活を送るための留意点について考えておく 講義 着なくなった被服の活用法を考えておく 講義 自分の理想の家の間取りについて考えておく 講義 看護師を目指すためには、具体的に何をしなければならぬのかを考えておく これまで学習してきたことをもとにして、看護師になるための目標管理シートを作成する
使用テキスト	プリント資料		
参考図書	現代高等保健体育（大修館） スーパーライブビュー（東京書籍）		
評価方法	目標管理シート、テストにより評価する。※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。		
履修上の注意			

分野		基礎分野	担当者 (職種)	徳田美保 (臨床心理士・公認心理師)
授業科目		心理学	実務経験	有 (医療機関に 15 年以上勤務)
			単位数 (時間数)	2 単位 (30 時間)
対象学年・学期		1 学年・前期	DP との関連	DP2
授業の目的	心理学の基礎知識を学ぶことにより、自己と他者への理解を深めること。自己の再認識、自己と他者への客観性を養っていくこと。 主観性と客観性のバランスを考えることから、看護の専門家としてアイデンティティの確立に役立てること。			
授業の概要	心理学のイメージはさまざまだろうが、他者に対する印象や自分の心の動きなどは決して何となく起こってくるものではないことを基礎的な知識で学ぶ。また、カウンセリングの基礎や心理テスト・性格検査などを取り入れ体験することで、自分自身への新たな気づきを促していく。			
授業計画 (回・内容・授業形態)	回	内容		授業形態
	1～7回	1 人間の心理を理解するための基礎 (講義と心理検査の体験) 各章予習しておくことを基本とする。 ① 感覚・知覚の心理 ② 学習・記憶の心理 ③ 感情・動機の心理 ④ 性格・知能の心理 ⑤ 発達の心理 ⑥ 社会・集団の心理 何気なく他者との関わりをしている中で自分の言葉や感情など意識することを学ぶ。		講義、演習
	8～14回	2 医療場面での人間理解の展開 各章予習しておくことを基本とする。 ① 健康の心理と人間理解 ② 臨床心理学の基礎とアセスメント (心理検査の体験をして、自己分析を行う) ③ カウンセリングと心理療法 (面接の模擬実習) ④ 行動する人間の理解 具体的なカウンセリング技法や心理療法を知ることで、自分の表現のあり方などを振り返る機会にする。		
	15 回	まとめ・筆記試験		
使用テキスト		長田久雄編；看護学生のための心理学 第2版 医学書院		
参考図書				
評価方法		筆記試験90%、授業態度10%で評価する。 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。		
履修上の注意		心理検査を取り入れるので、守秘義務を守ること。		

分野	基礎分野	担当者 (職種)	徳田美保 (臨床心理士・公認心理師)
授業科目	人間関係論	実務経験	有 (医療機関に15年以上勤務)
		単位数(時間数)	1単位(15時間)
対象学年・学期	1学年・後期	DPとの関連	DP2
授業の目的	「人間関係」は、働いていく上で、生きていく上でなくなることはない。いかに一人がいい！と言えども人間は社会性の動物であり、関わりの中から様々な気付きや変化を体験していくものである事を知る。何気ない行動、言葉かけ、表情にも「意味」のないものはない。発信者としての自分が、どのように感じ考えているのか、自分の様々な感情や癖をしっかりと自分の持っている価値観へのバイアスを知った上で関わりを持っていくこと。 看護の専門家として人間関係を大切に意識していくことを再確認すること。		
授業の概要	人間関係の成り立ちや基本的な知識を得る第1部となる。第2部で対人関係性に重きを置いた技法を学ぶことになる。グループ演習を取り入れた活用をしていく。第3部では保健医療領域におけるチームとしての機能、社会資源としての役割までを学ぶ。		
授業計画(回・内容・授業形態)	全8回(うち8回目(1時間)は試験)で、まずコミュニケーションの理論や成り立ちを知識として得ていく。各章予習しておくことを基本とする。 1～2回 第1部 人間関係基礎論(第1章～第4章) 人間関係を理解するための基礎となる社会心理学の概念や理論を中心に学ぶ。 3～5回 第2部 人間関係をつくる理論と技法(第5章～第8章) とくに他者を理解し、人間関係を作るために役に立つ理論や技法に焦点をあてて学ぶ。 グループワーク(GW)を取り入れながら学んでいく。 また、自分の持つ対人関係のクセやバイアスを知る機会となるようGWを行う。 GW後振り返りのシートを提出する。 6～7回 第3部 保健医療における人間関係(第9章～第12章) 保健医療特に看護においてどのような人間関係が重要であり、どのような意味を持つのか、組織、地域社会といった背景を含めて学ぶ。 第8回(1時間) 筆記試験		
使用テキスト	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 第3版 医学書院		
参考図書			
評価方法	筆記試験90% 授業態度10%で評価する。 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60点以上を合格とする。		
履修上の注意			

分野	基礎分野	担当者	太田佳光
授業科目	社会学	実務経験	
		単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
対象学年・学期	1 学年・前期	DP との関連	DP1
授業の目的	社会学の基礎概念である「社会化」のプロセスを視点とし、現代の家族・仲間集団・学校・職場などが抱える諸問題について解説する。その上で、看護における人間理解や人間関係構築の重要性について理解を深めることを目的とする。		
授業の概要	社会化の基本的考え方を講義した上で、その担い手としての家族・仲間集団・マス・メディアの現状と課題について考察する。また、近代社会における「死」の問題を取り上げる事により、看護師として必要な、終末期ケアへの関わりについて講義する。		
授業計画（回・内容・授業形態）	第1回：社会学の基本概念である社会化について講義する。 第2回：社会化の担い手とライフサイクルについて講義する。 第3回：近代社会における人権の概念と家族の果たす役割について解説する。 第4回：現代家族がかかえる問題の（1）として育児不安等について講義する。 第5回：現代家族がかかえる問題の（2）として家族の変容について講義する。 第6回：仲間集団の役割とその変容について講義する。 第7回：通過儀式の意味と現代における青年期の問題について講義する。 第8回：現代の学校の諸問題について講義する。 第9回：社会化の過程におけるマス・メディアの役割とその諸問題について講義する。 第10回：職場集団と人間関係の（1）として権威関係の概要について講義する。 第11回：職場集団と人間関係の（2）として人間関係論の概要について講義する。 第12回：高齢化社会の諸問題について講義する。 第13回：終末期ケアの（1）として近代における死の問題について講義する。 第14回：終末期ケアの（2）として看護に求められる課題について講義する。 第15回：まとめ・筆記試験 毎授業後に、授業内容についての確認と自身の意見や考えを小レポートにまとめること。		
使用テキスト	必要な資料を配布する。		
参考図書	加野芳正他編『新説教育社会学』玉川大学出版会、2007 年		
評価方法	筆記試験（100 点）によって評価する。 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。		
履修上の注意	講義の随所でディスカッションを行うため、授業に積極的に参加する必要がある。		

分野	基礎分野	担当者	二宮みき
授業科目	文学	実務経験	
		単位数（時間数）	1 単位（15 時間）
対象学年・学期	1 学年・後期	DP との関連	DP1
授業の目的	1. 作品の中に綴られている作者の感情や物の見方、考え方を読み取ることを通して自身の物の見方、考え方を広げ、深めることを目的とする。 2. 文章の主題を的確に読み取り、まとめることができるようになることを目的とする。		
授業の概要	徒然草の章段を通して、そこに見られる作者の自然観や人生観を読み取り、自身の考え方と照らし合わせながら視野を広げ、考えを深めることにつなげる。 文章の主題を読み取り、まとめる方法を確認する。		
授業計画（回・内容・授業形態）	①授業内容 1 回 序段 つれづれなるままに 徒然草を学ぶことの意義に触れ、「書く」ことの意味を考える。 2 回 第 10 段 家居のつきづきしく 一般論と実際との違いを通して、あるべきものの見方について考える。 無常観について考える。 3 回 第 12 段 同じ心ならん人と 第 13 段 一人灯のもとに 真の友、人間の孤独について考える。 4 回 第 38 段 名利に使はれて 日々の生活や人生の目標について考える。 5 回 第 56 段 久しく隔たりて会ひたる人の 好ましい会話のあり方について考える。 6 回 第 92 段 ある人、弓射ることを習ふに 「今」を大切に生きていくことについて考える。 7 回 第 137 段 花は盛りに 物事の見方、捉え方について考える。 8 回 筆記試験 ②授業形態 講義・演習 ③授業時間外に必要な学習 ・授業の章段を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題について文章を書いてくること。		
使用テキスト	桑原博史監修：徒然草 三省堂		
参考図書	荻野文子：へたな人生論より徒然草 河出文庫 木村耕一：こころ彩る 徒然草 1 万年堂出版		
評価方法	筆記試験（80％）、課題（20％）の総合評価 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。		
履修上の注意	A4 ファイルを用意する。		

分野		基礎分野	担当者	高山久徳
授業科目		哲学	実務経験	
			単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
対象学年・学期		1 学年・前期	DP との関連	DP1
授業の目的	人間存在の意味や生命の尊厳等について自己の考えを他者に伝えることができる。 世界及び人生について自己洞察を深め自己の死生観を他者に伝えることができる。 世界内存在としての看護者として医療の倫理につなげて考察し他者と対話できる。			
授業の概要	医療現場で生きる存在として哲学の意義および哲学思想の歴史的歩みを理解する。 哲学上の諸課題について優れた先哲の思想を学び取り自らの見識を切磋琢磨する。			
授業計画（回・内容・授業形態）	回	講義内容		授業形態等
	第 1 回	初めに 哲学とは何か、哲学と看護		オリエンテーション
	第 2 回	哲学の潮流① 古代の哲学思想		各回とも講義中心 討議 10 分程度 受講後課題レポート 提出
	第 3 回	哲学の潮流② 中近世の哲学思想		
	第 4 回	哲学の潮流③ 近代の哲学思想		
	第 5 回	哲学の潮流④ 現代の哲学思想		
	第 6 回	哲学の潮流⑤ イスラムの哲学		
	第 7 回	哲学の潮流⑥ インドの哲学		
	第 8 回	哲学の潮流⑦ 中国の哲学		
	第 9 回	哲学の潮流⑧ 日本の哲学		
	第 10 回	哲学の諸課題① 生と死、老と病、美と醜		
	第 11 回	哲学の諸課題② 善と悪、正義と不正		
	第 12 回	哲学の諸課題③ 存在と無、希望と絶望		
	第 13 回	哲学の諸課題④ 知覚と認識、現象と本質		
	第 14 回	結び 世界内存在として実存的に生きる		
	第 15 回	まとめ、筆記試験		
使用テキスト		伊藤邦武：物語 哲学の歴史 中央公論新社		
参考図書		魚住孝至：哲学・思想を今考える 放送大学教育振興会、木村利人監訳：命と向き合う看護と倫理 人間と歴史社、船木亨：死の病いと生の哲学 筑摩書房、M.サンデル：これからの正義の話をしよう 早川書房		
評価方法		筆記試験 70%、レポート 30%の総合評価 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。		
履修上の注意		挨拶励行、レポート提出励行、私語厳禁、携帯スマホ利用禁止		

分野		基礎分野	担当者	東海林慎介																																				
授業科目		健康とスポーツ	実務経験																																					
			単位数（時間数）	1 単位（30 時間）																																				
対象学年・学期		2 学年・前期～後期	DP との関連	DP1																																				
授業の目的	○ 個人スポーツとしてマット運動を通して個々の能力を高める。 柔軟性・平衡感覚・筋力等 ○ 対人スポーツとして卓球を通して相手の気持ち・考え方などを理解する力を養う。 ○ 集団スポーツとしてバレーボールを通して集団の中での自分、周りとの協調性を養う。 ○ スポーツを楽しみ、心身の健康の維持・増進ができる。																																							
授業の概要	前半には個々の身体のバランス・柔軟・補強等のトレーニングのために個人スポーツとしてマット運動を行い、後半には個人スポーツを通して相手の気持ち・考え方の理解をする力を養うために、卓球を行う。また、集団の中での自分、周りのメンバーとの協調性を養うために集団スポーツであるバレーボールを行う。																																							
授業計画（回・内容・授業形態）	<table><tr><td>1 回</td><td>マット運動（4F 講堂）</td><td rowspan="5">マット運動：ロングマット 4 枚を使用し、体のバランス・柔軟・補強等のトレーニングを行う。 ・前転・後転を行う事で体の回転によるめまい等を起こす三半規管の調整力を養う。 ・三点倒立によって、体の体感、バランス機能を高める。</td></tr><tr><td>2 回</td><td>マット運動（4F 講堂）</td></tr><tr><td>3 回</td><td>マット運動（4F 講堂）</td></tr><tr><td>4 回</td><td>マット運動（4F 講堂）</td></tr><tr><td>5 回</td><td>マット運動（4F 講堂）</td></tr><tr><td>6 回</td><td>マット運動（4F 講堂）</td><td rowspan="2">・壁倒立によって腕の支持力、バランス能力を鍛える。 ・側方転回を行う事によって体の重心移動を理解させる。</td></tr><tr><td>7 回</td><td>卓球（4F 講堂）</td></tr><tr><td>8 回</td><td>卓球（4F 講堂）</td><td rowspan="3">卓球：講堂で卓球台（6 台）を使用して学生を 2 班に編成し、リーグ戦方式で試合（シングル）を実施する。</td></tr><tr><td>9 回</td><td>バレーボール（体育館）</td></tr><tr><td>10 回</td><td>バレーボール（体育館）</td></tr><tr><td>11 回</td><td>バレーボール（体育館）</td><td rowspan="4">バレーボール：学生を 6 班に編成し、2 面のコートを使用してリーグ戦方式で試合を実施する。（安全面を考慮してソフトバレーボールを使用する）</td></tr><tr><td>12 回</td><td>卓球（4F 講堂）</td></tr><tr><td>13 回</td><td>卓球（4F 講堂）</td></tr><tr><td>14 回</td><td>卓球（4F 講堂）</td></tr><tr><td>15 回</td><td>筆記試験・まとめ</td><td></td><td></td></tr></table> 主な授業形態 実技 授業の前には準備運動を行っておくこと。				1 回	マット運動（4F 講堂）	マット運動：ロングマット 4 枚を使用し、体のバランス・柔軟・補強等のトレーニングを行う。 ・前転・後転を行う事で体の回転によるめまい等を起こす三半規管の調整力を養う。 ・三点倒立によって、体の体感、バランス機能を高める。	2 回	マット運動（4F 講堂）	3 回	マット運動（4F 講堂）	4 回	マット運動（4F 講堂）	5 回	マット運動（4F 講堂）	6 回	マット運動（4F 講堂）	・壁倒立によって腕の支持力、バランス能力を鍛える。 ・側方転回を行う事によって体の重心移動を理解させる。	7 回	卓球（4F 講堂）	8 回	卓球（4F 講堂）	卓球：講堂で卓球台（6 台）を使用して学生を 2 班に編成し、リーグ戦方式で試合（シングル）を実施する。	9 回	バレーボール（体育館）	10 回	バレーボール（体育館）	11 回	バレーボール（体育館）	バレーボール：学生を 6 班に編成し、2 面のコートを使用してリーグ戦方式で試合を実施する。（安全面を考慮してソフトバレーボールを使用する）	12 回	卓球（4F 講堂）	13 回	卓球（4F 講堂）	14 回	卓球（4F 講堂）	15 回	筆記試験・まとめ		
1 回	マット運動（4F 講堂）	マット運動：ロングマット 4 枚を使用し、体のバランス・柔軟・補強等のトレーニングを行う。 ・前転・後転を行う事で体の回転によるめまい等を起こす三半規管の調整力を養う。 ・三点倒立によって、体の体感、バランス機能を高める。																																						
2 回	マット運動（4F 講堂）																																							
3 回	マット運動（4F 講堂）																																							
4 回	マット運動（4F 講堂）																																							
5 回	マット運動（4F 講堂）																																							
6 回	マット運動（4F 講堂）	・壁倒立によって腕の支持力、バランス能力を鍛える。 ・側方転回を行う事によって体の重心移動を理解させる。																																						
7 回	卓球（4F 講堂）																																							
8 回	卓球（4F 講堂）	卓球：講堂で卓球台（6 台）を使用して学生を 2 班に編成し、リーグ戦方式で試合（シングル）を実施する。																																						
9 回	バレーボール（体育館）																																							
10 回	バレーボール（体育館）																																							
11 回	バレーボール（体育館）	バレーボール：学生を 6 班に編成し、2 面のコートを使用してリーグ戦方式で試合を実施する。（安全面を考慮してソフトバレーボールを使用する）																																						
12 回	卓球（4F 講堂）																																							
13 回	卓球（4F 講堂）																																							
14 回	卓球（4F 講堂）																																							
15 回	筆記試験・まとめ																																							
使用テキスト		使用しない																																						
参考図書		スポーツルール集等を参考																																						
評価方法		実技試験（マット運動・卓球・バレーボール）75%と筆記試験25%の総合評価 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。																																						
履修上の注意		学生一人一人の能力に応じた指導により、健康・安全面に十分注意する。																																						